

有機フッ素化合物による環境汚染問題についてご存じですか

有機フッ素化合物とは、フッ素を含む有機化合物のことで、一般的にパーフルオロアルキル化合物(Per Fluoro Alkyl Substances)を略して PFAS と呼ばれています。この物質は水をはじく性質と油をはじく性質の両方を持つことから、焦げ付かないフライパンの表面のコーティングの材料や、電子部品や医療材料などの製造にとって欠かせない化学物質であり、現代社会において私達の生活や科学技術を支えていると言っても過言ではない重要なものです。しかし、この物質は化学的に極めて安定性が高いことや、水にも溶けやすいことから、いったん環境に流出した場合は、河川等に移行しやすく、さらに長期間にわたり分解されないことから、環境汚染の原因にもなっています。人への影響については、世界保健機構(WHO)のがん専門機関は、アスベストやカドミウムと同等に「PFAS の発がん性は确实(特に腎臓がんのリスクが高い)」という結果を公表していますが、人が許容できる範囲については、未だ国際的に統一はされておらず、とくに日本政府は海外に比べて後ろ向きな態度を取っています。

PFAS による環境汚染問題は全国各地で起こっていますが、大阪ではダイキン淀川製作所(摂津市)が注目されています。ダイキン淀川製作所は 1940 年代からフッ素化合物の開発に取り組み、1960 年代後半には PFAS の一種の PFOA の製品化に成功します。その結果、工場から大量のフッ素ガスが大気中に漏れ出し、地域の田んぼや河川が汚染されました。その後、ダイキンは対策を講じますが、未だに摂津市をはじめとした淀川水系は PFOA に汚染されており、そこで長年生活されている住民の血液からも高濃度の PFOA が検出されています。

PFAS・PFOA から身を守る対策として、大阪府下の地下水や井戸水は絶対に飲まない、水道水はろ過されているので基本的には安全とされていますが、それでも心配される場合は、PFAS・PFOA を除去できる浄水器の利用をお勧めします。

災害時のために 持病の薬を備えましょう！



災害はいつ起こるか分かりません

先の 2024 年 1 月 1 日に起こった能登半島地震は記憶に新しいと思います。地震はいつ起こるか分かりません。また、近年の集中豪雨、ゲリラ豪雨での避難は緊急を要するケースが多くなっています。

また、かかりつけの医療機関や薬局が被災してしまい、しばらく受診できなくなることもあります。平成 30 年に大阪を直撃した台風 21 号では、停電が長引きカルテの閲覧ができなくなり処方箋発行ができなくなった事態がありました。

❁ 災害時には次のような事態が起こる可能性があります

- 災害直後は救命救急が最優先され、慢性疾患などの通常診療は後になる。
- 病院、薬局の薬の備蓄がなくなる。
- 避難生活が続くと、手持ちの薬がなくなる。
- 自分がいつも飲んでいる薬の種類、名前が分からない。病院・薬局でも確認ができない。
- 季節によって、避難所等で感染症が広がる。

このような災害時に想定される状況をふまえて
対策をしておく必要があります。



🌸 持病のお薬の備え

心臓病や高血圧、糖尿病などの慢性疾患で薬を飲んでいる方は、薬が足りなくなると命にかかわることもあります。持病の薬は、非常用に最低3日分を準備しておくといいでしょう。できれば7日分あると安心です。

先にもらった薬から飲んで、新しい薬を非常用に備えていきます。次に薬をもらったらまた新しい薬と取り換えて、常に新しい薬が古くならないようにします。保管する場所（冷蔵保存、遮光保存など）に注意が必要なものがあるので注意しましょう。

小さなファスナー付きのケースなどにまとめて入れて持ち歩くと、取り出しやすく便利です。



🌸 災害時、おくすり手帳はとても重要な役割を果たします

災害時、病院や診療所・薬局ではカルテ（お薬のカルテ）が見られなくなることがあります。その時は、おくすり手帳が、あなたのカルテ代わりになります。おくすり手帳があると、スムーズに持病の薬をもらうことができます。



おくすり手帳も普段から一緒に持ち歩けるように準備しておきましょう。おくすり手帳は普段から持ち歩くため、代わりに、お薬の説明書を非常用袋に入れておくと便利です。

スマートフォンの電子おくすり手帳アプリを利用する方法もありますが、充電切れや電波状況によってはスマートフォンが使えなくなる場合もありますので、非常用には、薬の説明書やおくすり手帳のコピーを入れておくと良いでしょう。

🌸 普段から準備しておくこと



- 飲んでいる薬があれば常に予備を持ち歩く。
- 避難時にすぐに薬も持ち出せるように一ヶ所にまとめておく。
- 薬を処方してもらう時におくすり手帳を毎回提出し常に情報を更新しておく。

おくすり手帳はどこ薬局でも無料でもらえます。

災害時対応医薬品供給車両（いわゆるモバイルファーマシー）

東日本大震災の際に、薬局が機能しなくなったり、避難所での生活のために、いつものかかりつけの薬局に行くことができなくなる事態が多く発生しました。その経験から、モバイルファーマシーが開発されました。現在、日本において 20 台（2023 年 11 月 30 日現在）ほどのモバイルファーマシーが待機しており、その数は少しずつ増えています。

能登半島地震では、このモバイルファーマシーが大活躍しています。災害時、処方せんによる調剤や服薬指導により、出来るだけこれまでの薬による治療を中断しなくてすむよう、また、避難所生活等で発生した体調不良に対して全力でサポートされています。



（そよかぜ薬局 薬剤師 井塚 めぐみ）

（一社）大阪ファルマプラン 〒555-0024 大阪市西淀川区野里3-6-8

<http://www.faruma.co.jp>

あおぞら薬局	電話：06-6477-8080
そよかぜ薬局	電話：06-6475-4670
あおば薬局	電話：06-6318-3787
すみれ薬局	電話：06-6556-3808
すずらん薬局	電話：06-6476-0121
なぎさ薬局	電話：06-4395-7600
もえぎ薬局	電話：06-6886-4770
あおぞら薬局 淡路店	電話：06-6160-0025
あおぞら薬局 三国店	電話：06-6394-3630
かがや薬局	電話：06-4702-3101
なつめ薬局	電話：06-6699-9977
こつま薬局	電話：06-6656-6007
介護ショップふあるま	電話：06-6477-8180



発行年月日
2024年 4月 1日